

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2192800064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」に基づき、コロナ禍の中、個々のサービスに取り組んでいる。また外出サービスが困難でストレスがたまるように玄関先で野菜や野花の収穫、草取りなど適度に体を動かしている。長雨がが続いているが施設内を歩きながら特養の利用者さんとの会話も楽しみの一つとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、景観の良い静かな元小学校跡地で運営しており、日当たりも良く過ごしやすい環境にある。地域とは、災害時の避難所として利用協定を結び、協力関係を築いている。事業所は、同法人の特別養護老人ホームと歯科医院がある広い敷地内にあり、コロナ禍でも散歩ができ、利用者同士が交流をしている。今年度から、5名の外国人技能実習生の受け入れと共に、宿舎を建てたことで、災害時に苦慮していた職員確保の解消に繋がっている。さらに、教え教えられることで職員間のチームワークも向上し、利用者に寄り添いながら、残存能力を引き出せるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が法人理念を念頭に置き、利用者の人生史を尊重し、生活の中で少しでも人生史が傾聴できるよう努めている。	管理者と職員は、健常者も利用者と共に生かされていることを理念の基本として捉えている。常に利用者を敬う気持ちから、「ゲスト」と呼んでケアを行い、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添いながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との付き合いが減ったが併設する歯科へは繋がりを継続し、地域の清掃作業は一員として職員が参加できた。	コロナ禍で中止になった地域の行事も多いが、草刈りや清掃作業には職員が参加している。地域の野球チームがボランティアで窓ガラス拭きなど、建物の外側の清掃を行ってくれている。併設の歯科医院へ受診に訪れる地域の人と利用者が、ラウンジで話すこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会も研修も中止となり施設内での事例検討会など会議のなかで話し合われた。地域へは困りごとの相談や話し相手には対応した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は書面での報告とさせていただいた。	運営推進会議は、感染予防対策のため、書面にて活動状況を報告している。その時々の方のホームの状況、活動内容、事業報告を添付するなど、工夫した内容となっている。全家族を含め、運営推進会議構成員に議事録及び資料を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中、地域の会議は中止となった。しかし、市や包括支援センター、各病院からの情報交流や問い合わせは電話で行った。	行政主催の新型コロナに関する研修には、オンラインで参加し、初任者研修は、当事業所を会場にして開催し参加している。必要な情報は電話で対応しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、勉強会を設け拘束のない支援の確認を行っている。	身体拘束廃止委員会を開催し、事業所独自の勉強会も行い、スピーチロックについても学んでいる。年に一度、職員アンケートを実施し、無意識に発している言葉、声かけについての意識調査を行っている。全職員で、日常を振り返り、身体拘束をしないケアと共に、スピーチロックを「0」に近づける支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意し目を光らせているが、虐待の事実はない。また、虐待防止委員会の活動もあり勉強会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の中でも独居の方が増えている現状がある。個々に応じて必要とされる場合は関係者と連絡、説明が行えるようにしている、また入居時にも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間をかけ自宅へ出向き行っている。利用者、家族の意向をお伺いし、説明は丁寧に行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、利用者の様子は毎月のお手紙に写真をのせ日々の生活の様子を伝えていく、時折、電話でも連絡させていただいている。	条件付きで家族との面会を可能とし、来所時に意見や要望を聞いている。毎月「元気館だより」と、利用者個人の様子を書いた手紙や写真を家族に送付している。家族からは感謝の手紙が届くこともあり、電話で話を聞くなどしながら、ケアに活かしている。	新型コロナ収束後には、以前のように顔を合わせた実践報告や利用者の些細な様子を話したり、家族の話を聞くなど、「家族会」を開催できる日が来ることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議を通じて職員一人一人の意見や業務の見直しを諮っている。又、4月から外国人技能実習生の受け入れにより職員間でのチーム作りがより一層強化された。	職員は、ユニット会議の際に、リーダーや管理者に意見や要望を伝えている。日常の気づきは、その都度、話すことが出来る環境にある。外国人技能実習生が入ったことで、職員間で教え合ったり、新たな気づきや学びにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には管理者会議を通じて常に情報を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	考えながら働き疑問や相談したい時間を作っている。各委員会での勉強会に参加し知識を高めあいより良いケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ拡大のため同業者との交流はほぼ中止となったが、施設内での委員会の勉強会が行われた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面時には、本人の話を細かく聞く、又心身の状況を見て確かめ不安や思いをくみ取り、大丈夫という受け止めの言葉をかけ安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明には時間をかけ、家族にとっても苦痛なく納得がいくまで要望や説明に勤めている、また後日でも電話でも対応させて頂けるよう説明し理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をゆっくり全て聞き入れ最も最初に必要とするサービスの導入を見極め施設での最大限のサービスの提供を提案し両者納得の上、利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ出し、自分も必要とされる、されている立場なんだと、思えるよう、明日への活力に繋げれる生活を両者が送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡の取れる、携帯電話の使用や家族の対応をお願いしている。普段の会話にも家族や大切な人への話題を多くできるように、忘れないように職員は注意を払いながら関係を構築させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外出等が制限される事があった。	外出や自由な面会が制限される状況であったが、併設施設とは自由に行き来が出来、利用者同士の馴染みの関係は継続出来ている。今は、感染予防対策をした上で、短い時間ではあるが、県内の家族がラウンジで面会できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身の状態の差はあるが出来る力を発揮し出来なくても攻めることなく温かい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様に電話にて近状報告を行い施設での生活を記録したアルバムを贈り家族に安心感をもって頂ける様に努め、繋がりをいつまでも保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いを把握し職員間で検討し趣味や特技を活かし、本人の意向に近づけるよう努めている。日々変化のある状態観察、健康チェックも、うまく意思を伝えられないこととしてある為怠らないよう努めている。	気の合う利用者同士が集まって話をする際に、さりげなく傾聴することで、思いの把握につなげている。介護記録をiPadに入力することになり、職員間で利用者情報を共有し易くなり、利用者本位の共通した支援を行えるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族、担当支援専門員から情報を集めるほか、入所後も施設内の生活から安心できるケア方法を見つけ安心に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は各々が暮らしが違うことを理解し暮らしやすさに寄り添いながら職員間では共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が、毎月モニタリングを行い特に変化のあった部分をユニット内会議に話し合い全員で意見を出し合いプランに反映し介護計画のもと、統一したケアに努めている。6月からは科学的操作のもと、iパットの導入を開始している。	毎月、家族の意向や要望を聞き、ケアマネジャー・担当職員・医師・看護師・栄養士がチームとなり、iPadに入力した利用者情報を確認しながら、プランを作成している。作成した介護計画は、利用者と家族に説明し、現状に即したものにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日々起こったことを事実のまま記録し利用者の第二の声と受け止め、会議や管理者に報告や相談し職員間の統一を測り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況を見極め柔軟な対応に最大限の提供を行っている。併設型施設の為機械浴や栄養補助食品の提供、補助具の提供も行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア（傾聴、野球チーム、近隣）の力を借りて日々の生活に変化をもたらす充実のある生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療所から往診体制をとっている、24時間往診体制が整い又、相談等も電話にて受け入れて頂ける体制を取っている。又併設されて歯科へは診療に通院できる状態である。	協力医をかかりつけ医とする利用者も多く、看護師と連携し、24時間安心できる体制である。緊急の場合は医師の指示のもと、下呂温泉病院とも連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。月2回、歯科医の受診を受けることができ、口腔がんを発見できた事例がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が、定期的に勤務に入り健康状態の把握に努め、急変時の対応や主治医への報告や家族への説明、アドバイスにも力を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は情報提供を敏速に行い情報の共有を行っている。病院関係者とは訪問し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化したときの意向の確認を行い指針の説明、同意書を交わしている。実際に看取り期には、医師から家族への説明の面談を設け安心出来る環境作りを行っている。	「看取り指針」を整備し、入居時に本人・家族に説明し、同意書を交わしている。状況の変化があった場合は、改めて本人・家族の意向を確認している。看取り期には、医師から家族に十分な説明を行っている。	看取りを実施しているが、定期的な看取り研修が実施されていない。技術的なこと・精神的なことを含めて、看取り介護の研修が継続して実施されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員参加の救急救命訓練を実施し、職員同士が確認、共有し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて職員は避難方法を学んだ。	地域の防災訓練は中止となったため、施設内で対策・訓練をしている。昨年の大雨で一時孤立した際、職員の確保に苦慮したが、今は外国人の技能実習生が5名おり、宿舎も建設し災害時には職員の宿泊所として機能できる。消防団とは協定を結び、協力体制がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げてあるように、利用者の人生史を大切に言葉かけの中に取り入れながら密な関係を作り丁寧な対応に心がけている。	利用者それぞれの人生スタイルを尊重し、自宅に居るような暮らし方を支援している。トイレ誘導等他の利用者や状況に配慮しながら、歯磨きへ行く途中に、さりげなく声掛けするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	迷いなく自己決定が行える支援を行っている、明確で理解しやすい言葉掛けを職員は注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化ある利用者の思いを聞き一日を過ごしていただいている。お茶の時間や食事の時間も本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれにまかせ、身だしなみには声かけ程度とし、迷いの少ない身だしなみを心がけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や郷土料理を取り入れながら利用者とも会話が弾み出来る範囲で一緒に料理し味付けの感想も共有できる関係作りを行っている、又後片付けは全員が参加し食器拭きやおしぼりを巻いてくださる。	食事作りでは、盛り付けや後片付け、調理など、利用者と一緒に行っている。ホットプレートを使って3～4人で「けいちゃん」を焼いたり、ホットケーキを作っている。食事をバイキング形式にするなど、楽しみながら食事ができるよう工夫している。箸や湯飲みは自宅で使用していた馴染みの物を使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、水分制限や栄養バランスの提供も行っている。また自分で水筒を持参しミネラルサーバーで水素水をいれて自室でも水分を摂取できる状態である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず、施設内の歯科衛生士による口腔ケアや状態把握に努め健康維持に繋げている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認し、早めの対応を心がけ失敗の少ない支援を行っている。	布パンツやリハビリパンツに、パットを組み合わせ使用している。パッドは、利用者一人ひとりの状態に合わせて選び、昼・夜共にトイレでの排泄を支援している。夜間は、併設施設の職員と連携しながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や、食物繊維を多く摂取し毎日の日課で運動や体操、散歩を取り入れ便秘の予防と対応に取り組んでいる。薬をなるべく使用せず自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴時間を提供し、羞恥心に配慮し異性入浴介護を拒否される利用者には同性介護を行っている。又汗をかいたときなどは足浴やホットタオルの提供を行っている。	床暖房のある広い浴室は、冬場のヒートショックを防ぎ快適な入浴を楽しむことができる。岩石を埋め込んだ床、情緒ある照明、信楽の浴槽は、旅館の風呂のように寛ぐことが出来る。職員は、利用者の話を聞きながら見守りと介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し自分のペースで休んで頂くよう支援し夜間眠れない時は無理をせず職員が寄り添える範囲で寄り添い安心に繋げ入眠の手助けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を確認しやすくするために日々の介護記録に薬の詳細と一緒に挟んでいる、服薬の毎日の確認印も行い職員間でダブルチェックを行ない飲み忘れのないケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を発揮出来るよう日課表に記載し全員が支援出来る状況にある、やる気をださせる声かけを行い楽しみややりがい繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で戸外に出て気分転換に努め体操や歌を歌ったり楽しみを見つけている。家族との交流や地域での交流はコロナ拡大のためされていない。	感染予防対策の為、外出を自粛している。敷地が広く、併設施設とつながっているので、建物の中や外回りを自由に歩くことが出来、朝・夕の散歩を日課としている。玄関先の花に水をやり、作った野菜を収穫するなど、戸外に出て気分転換を図ることができている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て本人の不安を取り除き、多少の金銭を持参している利用者は数名みえる。時々、自販機での買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持される利用者は数名みえ家族や知人に常時連絡の取れる環境にあり繋がりを大切にされる、また施設の電話を使い家族等に連絡される利用者もあり、繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設する特養へは常時行ききでどこでも安らげる空間の提供場所がある、季節の物を自然から多く取り入れ、快適で日々変化のある充実感ある場所となるよう工夫をしている。又面談室でもいつでもお茶やコーヒー等飲みくつろげる場所があり利用している。	廊下とトイレ以外は、全て床暖房となっている。ホームの廊下は広く、利用者は安全に移動することが出来る。季節の花を飾り、畳コーナーは、ちょっとした休憩スペースとなっている。利用者が孤立せず、好きな場所で過ごせるよう、居間には、テーブルが複数置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設館内はどこでも出掛けることができ数人で出かけられる事が多い、又一人で過ごしたい利用者にはそと職員が寄り添い寂しさのない支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら慣れ浸しんだ家具や洋服を取り入れ迷いなく安心して懐かしく思い出せる居室作りを行っている、利用者同士がお互いの部屋に入り雑談やテレビを一緒に観て過ごせるそんな仲間作りも出来ている。	居室は和室と洋室があり、入り口は格子の扉で趣があり、洗面台が設置されている。自宅から使い慣れた家具や小物を持ち込み、自分なりの好みの空間作りが出来ている。毎朝、職員と一緒に居室の掃除をし、気持ち良く過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるよう、利用者が手書きされた表札や目印がある。利用者同士で教え合いながら理解し自立した生活が送られている。		